

原作 浅田次郎

真次がふしぎな出口に気付いたのは、そのときである。

メガネを外して膝を抱え、半身を壁にあずけてじっとしていると、ふいに足元から、さあと潮の引くような気がした。頭痛と吐気が嘘のように消えて行った。体中の酒が一瞬のうちに揮発してしまったように意識が冴えた。

頭を上げると、そこに薄緑とベージュのタイルを組み合わせた階段があった。

目を伏せているうちに誰かがそっと運んできて、そこに大道具を置いたような気がした。

鮮やかな黄色の落葉が、群れ惑う妖精のように、真次の足元に吹き落ちてきた。地下道の無機質の色とは全くちがった、やわらかな光と色に、その階段は包まれていた。

永田町駅から引き返してきた中年の女が、胡乱な目つきで真次を睨みながら過ぎて行った。階段を気に留めた様子はない。

誰の目にもとらたてて奇異には見えぬその階段が、なぜ自分だけに格別なものに感じられるのだろうか、真次はいよいよふしぎに思った。

スリッケースを提げて、床の鳴るその階段を真次は昇った。

踊り場に立ち止まって地上を見上げる。ぽっかりと真四角に開いた出口には、銀杏の街路樹が葉をこぼちながら立ち上っており、オレンジ色の、造りものめいた満月が夜空に懸かっていた。

かすかに街の賑わいが伝わってきた。

夢だな、と真次は思った。階下を振り向けば、今しがたしゃがみこんでいた地下道である。

真次は踊り場のまんなか立ったまま、何度も地上と地下を見比べた。自分がひどく不安定な場所、たとえば棧橋と酔との間に渡した板の上に、決心がつかずに佇んでいるような気がした。

歌声と嬌声が響き、踊り疲れた即席の恋人らしいアベックが地下道を過ぎて行く。ミニスカートの上に毛皮のコートを羽織った女は、立ち止まって男の袖を引き、「やだ、事故だって、サイテー!」、と叫んだ。男はいかにも辛甚と感ずる感じで、女の肩を抱き寄せ地下道を引き返して行った。

真次は意を決して階段を昇った。道路の向かい側の景色が見える高さまで上ったとき、真次は思わす「ああ、と声を上げた。

憚いたわけではない。階段の上にその光景があるだろうことは、何となく予感していた。やはりそのとおりだった。

数段をおさるおさる昇りつめると、真次は長い溜め息をつきながら、突然現われた青梅街道の夜景を細密画でも覗きこむように丹念に見渡した。

そこが紛れもなく新中野駅の出口だと確信したとき、まず彼は履歴書と同じくらい正確に暗記しているメトロ・ネットワークを頭の中に描いた。

結論はひとつしかなかった。赤坂見附で銀座線と丸ノ内線乗りまがえ、眠っている間に生まれ育った新中野の駅まで来てしまったのだ。

そこは彼がかつて、約束された人生とともに捨てた町だった。今さら里心がついて、無意識のうちに戻ってきてしまったなどとは思いたくない。酔った頭に、自分を訪ねてきた圭三のことが残っていて、知らぬ間に足を向けていたのかも知れない。

いすれにしろ情けない話にはちがいないが、

出口の底に掲げられた「新中野」の文字を確認してから、真次はもういちど階段を降りた。

踊り場まで戻って地下の世界を覗きこみ、初めて愕然とした。

そこは明らかに、無機質の光に照らされた永田町駅の地下道があった。かすかに、半蔵門線の不通を伝えるハンドマイクの声も聴こえた。残業帰りらしいサラリーマンが、ちょうど真下で立ち止まり、舌打ちをして引き返して行った。

真次は自分が、どうとも説明のつかない空間のひずみに立っていることを知った。新中野駅の出口から差し入る月かげが、立ちすくむ半身を切り分けていた。

階段の上にはスリッケースが、置き去られた犬のように主人を待っている。そこに戻るには勇気がいる。もし夢ではないとしたら、自分はどうとどう、どうかなってしまったのだから。

小説「地下鉄に乗って」(講談社文庫/徳間文庫刊)より

堤 真一 岡本 綾 常盤貴子 大沢たかお

浅田ファンタジーの原点にして頂点が、ついに映画化。

地下鉄に乗って

原作：浅田次郎 (講談社文庫・徳間文庫刊) 音楽：小林武史 編集：キム・ソンミン 監督：篠原哲雄

10月 全国ロードショー

www.metro-movie.jp



日本中を涙させた

『ぼっばや
鉄道員』から7年――

浅田次郎の原点にして頂点、

ついに映画化！

現代から、昭和39年の東京へ。

地下鉄からタイムスリップした男の前に
あらわれたのは、若き日の父、そして
恋人にまつわる信じがたい事実だった――

直木賞作家・浅田次郎が愛と希望をうたう小説『地下鉄に乗って』が、
豪華キャストによりついに映画化される。東京メトロ全面協力のもと、
昭和2年の開業以来初となる実際の車両を使用した撮影が実現。
人生のよろこび、幸福を問いかける珠玉のファンタジーが誕生した。

帰れないあの日に向かって。

夢を乗せた地下鉄が、いま、ゆっくりと走りだす。



あなたは父になる前の父親を知っていますか？

あなたが生まれる前の母親に会いたいですか？

地下鉄に乗って

www.metro-movie.jp

特別協力



東京地下鉄株式会社

製作：2006 METRO ASSOCIATES

配給：ギャガ・コミュニケーションズ／松竹

GAGA USEN

powered by ヒューマックスシネマ

© 2006 METRO ASSOCIATES

堤 真一 岡本 綾 田中 泯 吉行和子 常盤貴子 大沢たかお

製作：宇野康秀 気賀純夫 島本雄二 早河 洋 エグゼクティブプロデューサー：河井信哉 遠谷信幸 林 紀夫 亀山慶二

企画：小滝祥平 三宅浩二 高松宏伸 梅澤道彦 原作：浅田次郎（講談社文庫・徳間文庫刊）脚本：石黒尚美／脚本協力：長谷川康夫 音楽：小林武史

編集：キム・ソンミン 録音監督：橋本文雄 撮影：上野彰吾（J.S.C.）照明：赤津淳一 美術：金田克美 視覚効果：松本 肇 監督：篠原哲雄

10月公開

有楽町・マリオン9F
丸の内ピカデリー2
03 (3201) 2881

新宿コマ劇場前シネシティ
新宿ジョイシネマ
03 (3209) 6180

池袋駅東口・サンシャイン60階通り
池袋シネマサンシャイン
03 (3982) 6101

JRハチ公口・渋谷ロフト前・三葉ビル7F
渋谷シネパレス
03 (3461) 3534

品川プリンスホテル内
品川プリンスシネマ
03 (5421) 1113

JR常磐線「亀有」駅下車、南口徒歩5分
MOVIX亀有
03 (5629) 7200

JR青森線沼島駅北口すぐモリタウイン内
MOVIX沼島
042 (500) 5900

横浜中区・マイカル本牧6階街 駐車場完備
MOVIX本牧
045 (625) 4766

みなとみらい・川崎駅東口・川崎駅東口より徒歩7分
109シネマズMM横浜
045 (664) 0109

JR川崎駅東口・京浜急行川崎駅中央口
川崎チネッタ
044 (223) 3190